

柿生 かきお 柿生 かきお 柿生 かきお 柿生 かきお 柿生 かきお 柿生  
 かきお 柿生 かきお 柿生 かきお 柿生 かきお 柿生 かきお 柿生  
**柿生文化**  
 かきお 柿生 かきお 柿生 かきお 柿生 かきお 柿生  
 かきお 柿生 かきお 柿生 かきお 柿生 かきお 柿生

平成24年6月1日  
 柿生郷土史料館 情報・研究誌  
 住所：川崎市麻生区上麻生6-40-1柿生中学校内  
 電話：044-988-0004 (柿生中学校)  
 第49号

川崎北部の修験を探るⅢ

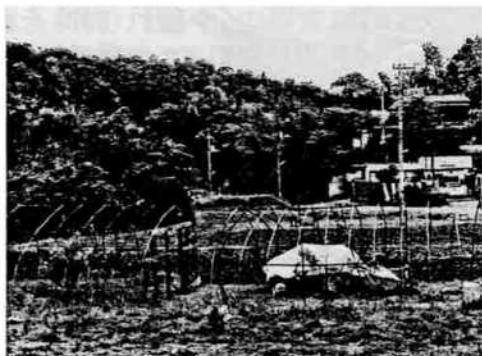
岡上山伏谷戸(やまぶしやと)の修験者

— 明治始めまで4軒あった岡上修験 —

かなり古い時代から修験者は、山奥での自己の修行だけでなく、里に住む人々の信仰を助け、災いを除き願いを叶えるために加持祈祷(密教的な祈り)を行なってきました。

きっと、毎年1月28日に盛大に行なわれる柿生不動の縁日や村でよく行なわれていた御嶽参り・大山参りなどでも修験者が活躍し、人々の生活と密接なつながりをもち続けてきたものと考えられます。

現在でも「山伏谷戸」という地名が残されている岡上では明治初年まで4軒の山伏修験が住んでいました。岡上の海老澤芳夫氏のお話によると、江戸時代はじめ頃から「〇〇院」と称して、家に「不動尊」を安置し護摩(火を焚きながら祈りすることと仏教の密教でおこなう祈り)を焚いたりして人々の幸福や願い事が叶うよう祈っていたそうです。

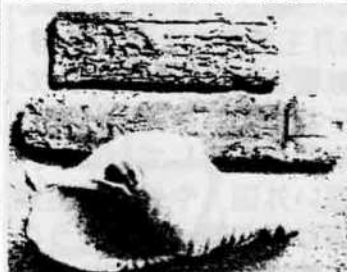


(岡上の山伏谷戸)

慶応4年(1868年)の「岡上村明細帳」には、この4軒はそれぞれ「持宝院」「王宝院」「泉宝院」「圓覚院」と名乗っていたそうです。

それでは、この4軒の山伏修験は日常どんなことをしていたのでしょうか。古文書によると江戸時代に隣の奈良村と入会(いりあひ二村人共有の土地)のことで争いがあった時、山伏修験が仲介しておさめたそうです。また、周辺の村である奈良・恩田・長津田・三輪・金井・大蔵など一帯に檀家をもっていて各家々の家運、魔よけ、治病、キツネ退治(人に悪いキツネの霊を追い出すこと)火伏せ守護(火事を防ぎ、火災から人を守るまじない)、蚕守護や護摩札を配ったり、病人やケガ人等の不運には加持祈祷を行なったそうです。

また、江戸時代末期の文政年間には、打ち壊し(政治に不満を持った民衆が金持ちの商人や高利貸し、役所を襲うこと)等が発生しないように流れ者や無宿人(住所不定の者)の取締を幕府や領主から依頼されたりもしています。全国の山伏修験には多くの系統がありますが、岡上の修験は真言宗の系統の当山派という派に所属していたそうです。



(岡上の修験者が使用した宝具と法螺貝)

やがて明治初年から始まった廃仏毀釈(はいぶつきしゃく二明治元年の神仏分離令をきっかけにして始まった仏教排斥運動)や5年9月の修験道廃止令が布告されると、山伏谷戸の4軒も改名し帰農しました。帰農後は農家の一般生活になりましたがそのうちの1軒は神道系の教団の役員に着いたそうです。修験は山岳信仰をもとにして仏教・神道のどちらの考えも持っていたため、禁止されるようなことになったのでしょうか。

### 郷土の歳時記

**6月** (水無月ニみづきニ置水の水の無い月ではなく「田水之月ニたみのつき」とも言われ、田に水を一杯にたたる月という意味です)

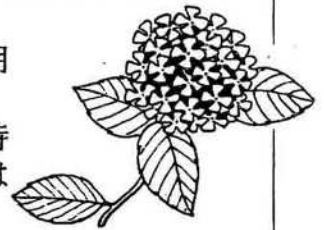
#### ◎衣更え(ころもがえ)ニ6月1日

現在のように夏服の衣更えが6月1日と決められたのは明治になってからです。

旧暦の4月1日には現在の国家公務員にあたる人たちが時節に応じた衣服に着替えるのが習わしで、平安時代中期には年中行事のひとつとして定着していたようです。

昔は、基本的に夏装束と冬装束がありますが、四季の気候にあわせてその都度衣服を替えるのではなく下着で調節していたそうです。

伊勢神宮では、古くから神衣祭(かみそさい)と言い、4月と9月の14日に神事で使う衣服を替える儀式が行なわれています。



#### ◎夏越の祓え(なつのはらえ)ニ6月末

昔は、旧暦の6月末に「夏越の祓え」「水無月祓」といい各神社では「物忌み」(神事などをする際、ある期間、不浄を避け、身体を淨め飲食を慎む事)としての儀式が行なわれました。その

一つとして茅(かやニ現在では稲ワラを使うところもある)でできた大きな輪をくぐり罪

や穢れ(けがれ)を祓う(はらう)「茅の輪くぐり」の行事が行なわれました。この儀式は、伝染病から守ってくれる「天王様」の信仰とつながりがあるようで柿生・岡上でも昔は、広く信仰されてきた神様であったはずです。

ちょうどこの時期から食中毒や伝染病が流行する事を考えても納得のいく神事であると思います。



(茅の輪くぐり)

### ボストン美術館 日本美術の至宝展に思う

現在、上野の東京国立博物館にアメリカのボストン美術館に収蔵されている日本の仏像、絵画などの美術品が里帰りして多数展示されています。

それにしても、日本の超一級の文化財がかくも大量に海外に流失したということは実に残念でたまりません。欧米の博物館・美術館でよく見かける光景は、アジアやエジプトの文化遺産の展示の多いことです。確かロンドンの大英博物館だと思いましたが、館の一角に「日本館」があり日本の博物館・美術館より貴重で立派な美術品が大量に陳列されています。同時にイギリス独自文化の展示品より他国、多民族の文化財の多いことには驚かされます。

ならば、なぜこんなに日本の文化財が海外にあるのでしょうか。日本の場合、盗難にあたり掠奪されたということは少なかったと思います。それは明らかに日本の政治の失敗や文化財に対する意識の低さにあったように思われます。

歴史を振り返ると明治初年の「廃仏毀釈(はいぶつきやく)」が一番大きな原因と思われます。慶応4年(1868年)3月王政復古とともに神社と寺院を切り離し仏教の影響力を排除しようとしたことがきっかけでした。それ以降、全国的に寺院や仏像・仏具の破壊、焼却事件が発生しています。



(仏像が多数展示されているバリのキメ東洋美術館)

その時に来日していたお雇い外国人や外国人実業家が格安で購入収集し、母国に持ち帰ったというのが実情であったのです。実に情けない話ですね…

# 小倉美恵子氏「オオカミの護符」を語る

— これからの地域社会を考える —  
— 地域社会における「絆」とは? —

地元、川崎市宮前区土橋で生まれ育った小倉さんの講演「オオカミの護符」は、決して一般的によく耳にする『昔はよかった』というメッセージではありませんでした。

小倉さんは生育歴の中で育まれてきた「思い」を「オオカミの護符」によって気付かされ、かつての村の中にあつた温もりや人間関係を考え、さらに東日本大震災での「絆」



(講演される小倉美恵子氏)

が現代人の心に与えたものが何かを考えるよいきっかけとなったと語っていました。

現代社会を遠い昔にそのまま戻すことではなくかつて生きた人々の「思い」の根底にある「何か」と現代人が失いかけている「何か」を追求し、現代人が再構築しなければならない大切な「何か」への強いアピールであったのではないかと思います。

**小倉美恵子氏講演 第2弾!**  
 テーマ「うつし世の静寂に」  
 — 映像と講演 —  
 期日 7月30日(月)18:00  
 会場 額谷丘アートセンター

## 常設展示リニューアル

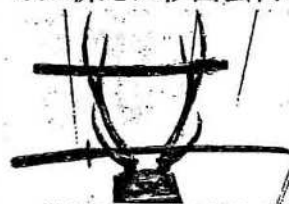
# 展示内容が更に充実「柿生郷土史料館」

—— 感謝！ 増えた寄贈品・寄託品 ——  
—— 「友の会」会員100名を突破 ——

柿生中学校の新校舎完成とともに「柿生郷土史料館」が開館して1年と7ヵ月になります。郷土の皆様より絶大なご支援をいただきまして、館内の展示物やカルチャーセミナーなどの諸事業もますます充実してまいりました。

この度、4月21日より、常設展示の内容がリニューアルされました。

「郷土史料コーナー」は、鎌倉時代の太刀や江戸時代の寺子屋で使われた教科書、昔懐かしい生活古民具や農具、さらに鶴見川より採取した砂鉄から抽出した玉鋼(たまがね)で作った刃物と、その完成までの経過を展示いたしました。一方、「教科書に登場する史料コーナー」



(鎌倉時代の太刀「一文字助宗」)

(「かわさきのミュージアム」に掲載された史料館)では新たに杉田玄白の『解体新書』が登場しました。複写版ですが江戸時代の医学書そのままの姿を目の当りにすることができます。

なお、隣の特別展示室では「写真でたどる 郷土百年の歩み 展 I～大正から昭和20年まで～」が開催されています。懐かしい故郷の姿を是非ご覧ください。



(寺子屋で使われた教科書)

**柿生郷土史料館**  
 〒215-0211 川崎市宮前区土橋5-40-1 (柿生中学校内)  
 所在地: 515-0211 川崎市宮前区土橋5-40-1 (柿生中学校内)  
 館内には多くの文化財と自然に恵まれた地域です。その中で地元住民と学校が連携して郷土の文化財や歴史を後世に伝えたいという思いで作り上げたのがこの史料館です。  
 展示品は、地元の名産物から採集された「寺子屋」の教科書や「解体新書」や「浮城」や「大正」を軸とした「郷土史」や「近代史」を中心とした「郷土史」や「近代史」など多岐にわたります。また、近年の歴史資料も多数、可能なものは展示もいたします。また、元々の思いに添った何かを見つけたことがあります。  
 一方、年3回の特別企画展を開催。カルチャーセミナーや特別企画展のガイド講座も定期的に開催しています。詳しくは公式サイト(ホームページ)をご覧ください。

TEL 044-988-0004  
 FAX 044-988-0005  
 受付時間 10:00～18:00  
 休館日 月曜日(祝祭日を除く) 館内清掃日 毎月10日(祝祭日を除く)  
 駐車場 あり

### 高津区蟹ヶ谷の神庭 (かむ) 遺跡

## 川崎唯一現存の前方後円墳 発見!

現在、特別緑地保全地区に指定されている高津区蟹ヶ谷神庭(かむ)で6世紀と思われるの前方後円墳が発見されました。もともとこの地域は、たくさんの古墳が発見されていた所で今回発見された古墳以外にも周辺に3基の古墳が確認されていました。

前方後円墳は大和王権(大御代)と深い関係があり、特に興味のあるところは、発見された地域は鶴見川支流の矢上川であり、同じ支流の早淵川流域には矢崎山古墳をはじめ多くの先進的な文化をもつ遺跡が発見されています。鶴見川文化との関わりも深く杉山神社の系譜をふくめ今後の調査に期待されるところです。



(神庭の「前方後円墳」)

### 柿生郷土史料館開館のご案内

#### 開館時間

開館：午前10時  
閉館：午後3時

開・偶数月は土曜日  
館・奇数月は日曜日

6月 2日(土)  
6月 9日(土)  
6月16日(土)  
6月23日(土)  
※6/30日は休館日です。

7月 1日(日)  
7月 8日(日)  
7月15日(日)  
7月22日(日)  
※7月30日(月) 18:00~アートセンター映像館  
(新百合ヶ丘)カルチャーセミナー「うつし世の静寂に」

### 柿生郷土史料館の5・6月の催物

(特別企画展) ※問い合わせ 988-0004 (柿生中学校)

#### 第5回 特別企画展

「写真でたどる  
郷土百年の歩み展 I」(期間：4/21~7/22)

#### (各種セミナー)

#### 第36回 カルチャーセミナー

「うつし世の静寂(じま)に」<sup>上映</sup>と宮前区土橋で育った著者、小倉美恵子氏の<sup>講演</sup>  
— 必見! 何度見ても新たな感動が! —

- ◎講師 小倉 美恵子 氏 (ささらプロダクション)
- ◎日時 7月30日(月) 午後6時開演 (受付：午後5時30分より)
- ◎会場 新百合ヶ丘「アートセンター」映像館
- ◎入場料(会費別、他) 大人300円 こども100円(中学生以下)
- ◎内容 ・人々はなぜ「講」を守り「伝統芸能」を復活させたのか  
・祖先が培ってきた「祈り」「絆(きずな)」の意味は何  
・現代人が忘れてしまった大切なものとは……

